ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院　隔月15日発行　編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号　☎042-491-2525　URL: http://www.betohp.com

日本医療機能評価機構

No.121

ベトレヘムの挑戦：身体拘束ゼロへ向かって

～ミトンからマスコット付き手袋（ベトボール）へ～

院長　青木 信彦

病院の仕事で一番悩ましいのは入院患者さんに身体拘束（身体の動きを抑制すること）が必要になった場面です。多いのは手など上肢の拘束です。

入院患者さんの中には経管栄養チューブ・中心静脈カテーテルの必要な方が少なくありません。しかしご自分でチューブ・カテーテルを抜いてしまうことがあります。その予防対策は限られていて、どうしてもミトンという手や指の拘束が必要な場面が発生します。（ミトンは野球のキャッチャーが使うミットのようなもので、ミトンの語源はミットです）

なんとかミトンを避けたい、しかしチューブ・カテーテルの抜去は避けたい：現場の看護師・介護士の悩みは深刻です。

そこでベトレヘムの園病院ではベトレヘム発の「マスコット付きの手袋」（ベトボールと名付けました）を考案しました。写真のように見た目もかわいらしく作りました。そして、改良を加えて・現場で使って・評価して、この繰り返しで５年が経過したのです。

ご家族のみなさんにも評価していただいたところ、「見た目にも可愛らしくて、とてもいいですね！」と好評です。

せっかくこんなに良いものができたのです。これからは世の中にベトボールを紹介して、幅広く多くの方に（世界中の病院は同じ状況ですので）使っていただきたいと思います。（ベトボールの特許をとって---、などというセセコマシイ考えは持っておりません）

お近くの病院や介護施設のみなさん！ ベトボールを試用してみようとのお考えがありましたら看護部長までご一報ください。

手背側からみた
マスコット

手掌側からみた
マスコット

【引用文献】山越真美：身体抑制解除に向けた小さな取り組み：ミトンから着脱式マスコット付き手袋（ベトボール）への試み
Brain Nursing 30(11):84-87、2020年

詳しくは
QRコードで
論文をご覧ください
》ベトボール

第25回日本褥瘡学会 学術集会

褥瘡委員の研修として9月1.2日と神戸で開催された褥瘡学会に参加してきました。

コロナ禍での訪問や病院での褥瘡の対応、対策の仕方に様々な工夫がされてとても勉強になりました。これからの日本は「家で見る」介護にシフトしていくので、重度の褥瘡の対応や対策もやらなきゃいけず、まだまだそれに向けての課題が沢山あるとのことでした。

介護福祉士　澤田 雄基

●

初参加で神戸へ、当たり前だが褥瘡に関しての沢山の情報の集結、多くの人達が闘ってきた熱意、全てのセミナーに参加出来ず勿体ない、2日間では足りないと感じた、来年は姫路で開催、興味のある勉強熱心な方に是非参加して欲しい。

介護福祉士　岩﨑 康子

9月2.3日と神戸で開催された褥瘡学会に参加してきました。まず行くまでの不安が先に立ちました。

1人で行くわけではなかったのですが行った事のない遠い遠い神戸。そして大きな規模の学会に参加する機会もなく看護師の仕事を始めて数十年。驚きは的中しました。会場は広く演題によっては建物を移動しなくてはいけませんでした。そして場違いではないかと思う程の人。人。

でもそこは、学ぶ場所でもありました。「なるほど、そうなんだ」と感じる事多々ありました。全ての演題を聴くことは出来ませんでしたが、症例を共有していく事で医療が進んでいくのだと実感しました。もっと若い人材に行って頂いた方がいいのではと何度も感じ足が重かったのも事実でしたがこの先一生食べられないであろう目の前で焼いてくれた神戸牛を食べ、それ以上に私はハーブ園で食べたソフトクリームと駅前の喫茶店で食べたケーキがとても美味しかったです。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。　看護師　藏根 久子

日本エンドオブライフオブケア学会 第6回学術集会

群馬県前橋市で行われた『日本エンドオブライフ学会』に参加してきました。急性期から慢性期、また在宅や施設からの参加があり、医療全体でエンドオブライフに取り組んでいることが伺えました。

当院でも取り入れている『ACP』『ユマニチュード』の重要性を改めて実感。その人らしく安心して入院生活が送れるような看護を目指したいと今後の課題を見出すことができました。

看護師　加藤 和佳

多くの講演のなかでも、イヴ・ジネスト氏によるユマニチュードは大変興味深いものでした。日々、忘れがちなケアを行う者の原点なようなもの。人間同士の繋がり、人間らしさについて。優しく見る、話す、触れる、人間が本来必要とするものの大切さを、改めて、自分へ問いかける機会となりました。ありがとうございました。

看護師　門叶 真智子

第54回日本看護学会学術集会

大阪で開催された「日本看護学会学術集会」に参加してきた。コロナに関した演題も多く、全国の看護職がどれだけコロナに振り回されてきたか、今でもどれだけ気をつかって対応しているか、改めて考えさせられた。

看護師　安達 千枝

2040年問題に向けて病院はどう変わるべきかについて学んできました。

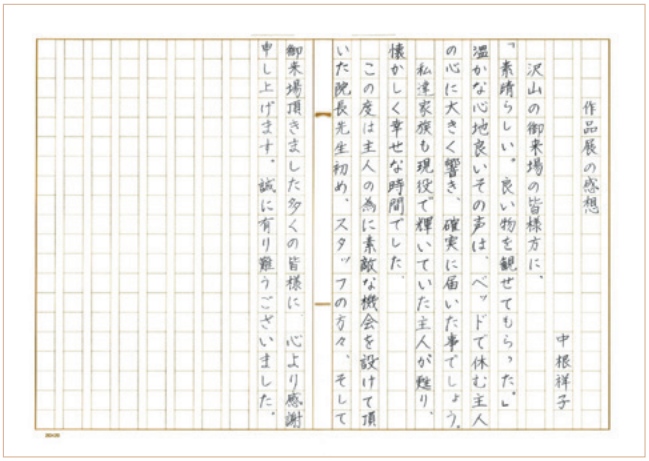
少子化で労働人口が減り、労働者も高齢化します。今の業務を、もっと高齢化した少ない人数で回さなければなりません。

定年前後のナースをプラチナナースと言うそうです。まさに私がそう。プラチナナース使えないと言われないよう、知識も技術もアップデートし、10年後も役に立てるようでありたいと思いました。　看護師　千葉 博子

お知らせ

ギャラリーマルゴ開催記
中根三總作品展

10月18日(水)第２回ギャラリーマルゴ「中根三總作品展」が開催されました。手書き友禅作家の中根三總氏の若いころからの作品、また脳卒中発症後にリハビリテーションを兼ねて奥様と二人三脚で取り組まれたスケッチや絵手紙の数々を展示頂きました。来訪者が50名を超える大盛況となりました。一部ですが当日の様子と奥様から頂戴した感想も掲載させて頂きます。



作品展の感想

中根祥子

沢山の御来場の皆様方に、

「素晴らしい。良い物を観せてもらった。」

温かな心地良いその声は、「ベッドで休む主人の心に大きく響き、確実に届いた事でしょう。

私達家族も現役で輝いていた主人が懐かしく幸せな時間でした。

この度は主人の為に素敵な機会を設けて頂いた院長先生初め、スタッフの方々、そして御来場頂きました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

ひふの話 その73

市川 雅子（皮膚科医師）

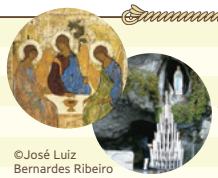
足がむくむと皮膚炎が起こる。

「足がむくむ」とは、下肢全体、あるいは膝から下、足の甲が腫れたようになることです。原因は心臓、腎臓、肝臓など臓器の不調からくるむくみ、腫瘍や手術などでリンパの流れが悪くなって起こるむくみ、下肢静脈瘤、肥満などさまざまです。今回は「うっ滞性症候群」についてお話します。「うっ滞」とは下肢の静脈の流れがよどんでしまうことです。静脈は心臓から送り出された血液を心臓に戻す管です。下肢に流れた血液は重力に逆らって心臓に戻らなければいけません。そのために静脈には血液が逆流しないように弁があります。この弁と周りの筋肉の圧迫で血液は心臓にもどることができます。しかし、老化などで静脈の弁がうまく働かなくなり、また筋力低下で十分な圧迫ができなくなると、静脈の中に血液がよどみ始め（そして静脈がこぶのように膨らんでくると下肢静脈瘤です）、リンパ液の流れも悪くなり、皮膚組織の中に血管からしみだしたリンパ液が溜まってきます。小さな血管が静脈圧の上昇で破れ、点状の紫斑がたくさんできます。その後、皮膚炎がおこり、その繰り返しで皮膚色が濃い褐色調になってきます。さらに悪化すると皮下脂肪で炎症が起こり、それが進行すると、炎症後の線維化によって皮膚が硬くなり、小さな傷が治らず皮膚潰瘍（皮膚がえぐれた状態）にまで悪化することもあります。これらをまとめて「うっ滞性症候群」と呼びます。このような状態になるのは下腿下方1/3がほとんどで、リンパ液がもっとも溜まる部位です。治療方針としては、先ずは下肢の「安静」「圧迫」「挙上」を行い、皮膚炎にはステロイド外用剤、潰瘍化した場合は潰瘍治療に使われる外用剤を、静脈瘤がひどい場合は血管外科での治療が必要です。また、むくんだ皮膚は乾燥しやすくなるため、保湿剤も併用します。毎日洗うこと、清潔にすることも重要です。この中で最も重要なのは日中の下肢の圧迫です。圧迫は弾性包帯か弾性ストッキングを使いますが、肌が弱い人はかゆくなることもありますので、保湿剤をぬったあとにガーゼを全体に巻いてから弾性包帯をまいたり、ストッキングのゴムの部分にガーゼなどをはさんだりします。なお、就寝時には圧迫はしません。また、動脈閉塞性疾患がある場合は圧迫禁止です。また、下肢の安静とは言ってもずっと椅子に座ったままもよくありません。こまめに足首をまわしたり、足台に足を上げてみたりしてください。寝ているときに薄い座布団1枚程度の厚さで下肢挙上することも良いと思います。弾性包帯の巻き方、弾性ストッキングのはき方には基本がありますので、使い始めの時は医師か看護師に聞いて下さい。

新連載「パストラルの窓から」

カトリックの聖人シリーズ……2

聖シャルル・ド・フーコー（1858～1916）



©José Luiz Bernardes Ribeiro

今回は、昨年の5月15日に「列聖」された、司祭、探検家、トゥアレグ族の言語および文化研究者としてサハラ砂漠で観想生活を生き、58歳で盗賊団に殺害されたシャルル・ド・フーコー神父を紹介します。

シャルル・ド・フーコー神父は1858年、ストラスブール生まれ、探検家、地理学者として知られる。信仰を失い、無規律な生活を過ごしていたが、軍人になり、モロッコ探検を機に、神の現存に心を揺り動かされ28歳で回心、サハラ砂漠で遊牧民トゥアレグ族の友であろうと努め、奴隷制度と闘い、言葉と文化を学び、トゥアレグ族の抒情詩を収集し、タハマク語の辞書を編集、1888年には著書『モロッコのルネサンス』を発表した。1890年に厳律シトー会に入会、1916年12月1日、サハラの奥地で暗殺された。2001年4月24日に教皇ヨハネ・パウロ2世によって尊者、2005年11月13日に教皇ベネディクト16世によって列福された。　「2021年5月7日 - キリスト新聞社ホームページ」

Edsdet/パブリック・ドメイン via ウィキメディア・コモンズ.

彼は自分をイエスの小さい兄弟シャールと呼び、イエスの体と血の捧げものである聖体のうちに、神の現存と、傷ついた人類を癒し救うその愛を見、他者へと向かい、人々の中に共にいるという友愛と献身の美しい模範を示しました。

1933年、小さい兄弟ルネ（ヴォイヨーム）がサハラ砂漠で、イエスの小さい兄弟の友愛会で創立し、他にもシャールに連なる十七を越える霊的修道家族や信徒のグループが世界各地で活動しています。

「イエスの小さい姉妹友愛会」ホームページ

お知らせ

12月の健康公開講座 健康長寿シリーズ

「健康長寿は腸活がポイント～毎日の生活に「アレ」を取り入れよう～」

12月7日（木）14：00～　会場　病院2F会議室／講師　窪田看護部長

来場者に粗品進呈　ベトレヘムの園病院　☎042-491-2525

編集後記

あんなにも暑かったのに…夏は遠い昔のようです。猛暑の夏を超えると、雪山が待っている⛄そんな期待に胸が膨らみます。学生時代から細々と続けているスノーボードは、一向に上達しませんが、真っ白な雪の中、風を切って進む爽快感は病みつきです。（もちろんヘルメットは必須アイテムです。）しかし、期待とは裏腹に、今年は暖冬予報とのこと、心配です。しっかり寒くなって、たっぷりとお山に雪が降ってくれなくては！ふかふかパウダースノーを願って止みません。（K・M）